

### 3 学期終業式 式辞 ((平成 30 (2018) 年 3 月 20 日 (水))

3 学期の終わりの式であり、1 年の締めくくりの式です。

およそ 1 年前、4 月に着任式で、ここに立ったときとは、随分と違うリラックスした気持ちで私は、今、このステージに立っています。

この気持ちは何なんだろうって、考えてみるに、無事に 1 年間を終えることができる安堵感か。それもある。何回もお話をする機会があった経験か。それもある。

一番大きいのは、4 月には、まだ見えていなかった皆さんのこと、先生方のこと、学校のことが 1 年間を通して見えてきて、素直で、一生懸命な皆さんの姿にふれて、皆さんに対する信頼感、安心感になっているというのが一番の理由かなと思っています。

この、信頼感・安心感こそ、北高のよさで、それは、皆さんも感じているんじゃないかな。

昨日のクラスマッチで、他のチームを我がゴトのように応援し、盛り上がる姿、どこでも、どんな立場でも一生懸命になれるんやね。そういや、先生方とのドリームマッチで、どさくさに紛れて、好き放題実況しよったの。

表彰式までの時間調整にアドリブで、中野君と田村君がなんかやってたけど、ああいうことができるのも、北高生全員の顔がわかってて、信頼・安心感があるからよね。知らない人ばかりの中ではできないし、最後に、1, 2 年生全員でやった、あれなんていうの、あれも気持ちが一つになったようで、よかったですね。

4 月には、下関北高校が開校し、新入生を迎えます。この北高のよさをしっかりと伝えていきましょう。そして、一人ひとりの個性がきらきら、キラキラ輝くような学校を創っていきましょう。

今、私は、私だけでなく、他の先生もそうだと思うけど、「先輩を見習え」って言える自信をもって言ってやろうと思っています。

さて、授業をする機会がないから、皆さんは知らないと思うけど、元々、私の担当教科・科目って何だと思いませんか。

この体から溢れるルネッサンスの香り。レボリューションの雰囲気。そう、世界史なんです。

教頭先生や山手先生と同じ、ルネッサンスの香りがするでしょう。笑うとこ。

世界史の話を少しさせてください。私の好きな歴史上の人物の演説を紹介したいと思います。ロバートケネディと言うで、お兄さんのジョン F ケネディはアメリカの大統領。ダラスという町でオープンカーでパレード中に暗殺される映像を見たことがある人もいると思います。その弟のロバートも兄の意志を継いで大統領になろうとするんだけど、彼も暗殺されてしまうんです。

歴史というのは、一人の英雄じゃなくて、民衆の力で創られるって教えながら、カエサルがおり、ナポレオンがおり、源義経がおり、織田信長がおり、内心自分の中で、整理がつかなかった自分が腑に落ちた演説です。

歴史を思い出してもらいたい。思想においても行動においても、世界を変えた偉大な動きの多くは、たったひとりの人間によって成されてきたのではないか。一人の若い僧侶が宗教改革をなし、(だれかわかる？ルターやね。)ひとりの若い将軍は国境をマケドニアから地の果てまでのぼし、(だれかわかる？アレクサンドロス大王やね。)一人の若い女性がフランスの領土を奪還した。(ジャンヌダルクやね。)ひとりのイタリアの探検家は新天地を発見し、(コロンブスやね。)32歳のトマスジェファソンは人間はすべて平等と宣言した。(アメリカ独立宣言やね。)古代ギリシアの数学者アルキメデスは、言った。私に立てる場所をくれ、そうしたら、世界を動かして見せようと。(てこの原理やね)

これらの人々は皆世界を動かした。われわれにもできないわけがないのだ。歴史そのものを曲げる偉大性をもつ者は少ないかもしれない。しかし、我々一人ひとは、社会のほんの小さな一部分をかえてくことはできる。それらの行為が一つにまとまった時、はじめて、この世代の歴史が書き綴られていることになるのである。

勇気と信念に基づいた行動を起こす人は絶えずさざ波を送り出している。そのさざ波がエネルギーになり、いかなる壁もつき破るのだ。

新しい高校が誕生するにあたり、新年度をこれから迎えるにあたり、一人ひとりが小さくてもいいから、周囲にちょっとした影響を与える、そのさざ波になりましょう。